

2019年6月3日(月)第8号

共同研究推進委員会通信

発行：教育学部共同研究推進委員会/共同研究推進委員長

学び合い、考えを深めて、みんなで「批評の達人」を目指そう！



5月31日(金)、附属中学校において新垣真先生(国語科)の授業研究会が

行われました。本日は共同研究に当たられている萩野敦子先生に授業研究会の様子を報告していただきます。

.....

梅雨のまっただ中ながら附属中学校の先生たちの日頃の行いが良いためでしょう、まずまずの天候に恵まれた金曜日の午後、今年度初の公開授業研が行われ、家庭科の上間江利子先生とともに国語科の新垣真先生が、先陣を務められました。

真先生は、国語科の領域でも特に指導が難しいとされる「書くこと」の研究授業に、3年1組の生徒40名と挑戦しました。9時間構成の単元「目指せ！批評の達人～新聞広告の批評文を書こう～」の7時間目の授業に当たります。

子どもたちは過去6時間、批評文を書く際に観点を持つことの大切さや伝えたいことを適切に読み手に届けるためのコツなどを学んできましたが、本時からは教科書を離れたパフォーマンス課題に取り組みます。新聞広告コンテストで最終選考に残った3点の候補から最優秀作品を選ぶというミッションが課せられ、まずは個人で対象作品

をじっくり観察・分析し、次にグループで意見を交わして見方や考え方を深めたうえで、批評の観点を定め、作品を評価していきます。手や頭が止まりそうになったときには、真先生からの絶妙な支援(声掛け)が、先へ進むためのヒントを与えてくれます。

学び合い(意見交換)に熱が入ったため、批評文を完成させるには至りませんでした。ほとんどの子どもの視界にはゴールが見えている状態で、授業は終了しました。

参観者による子どもへのインタビュータイムを経て、授業研究会に移ります。授業者と共同研究者の説明の後、参加者はグループに分かれて、子どもの学びの姿について気付いたことや、一人ひとりが深く学ぶために必要な手立て等についてユンタクしました。ここでの注目は、A2サイズに拡大された学習指導案「本時の流れ」。授業の時間軸に沿って子どもがどう学びを深めていったかを振り返り書き込むのに便利で、附属中学校提案の新たな武器と言えそうです。

中体連を控えた時期のため、授業研究会への公立中学校からの参加は4人(授業参観は12人)でしたが、附属学校教員と教育学部学生を加えた23人が、上江洲朝男先生(教職センター)の丁寧な指導助言も含めて、有意義な学びの時間を過ごしました。

真先生と3年1組の皆さん、素敵な授業をありがとうございました！

(文責：萩野敦子)